

# 令和3年度(2021年度)セタシジミ肥満度モニタリング

井戸本純一・佐野聡哉

## 1. 目的

セタシジミの産卵前の肥満度は近年大きく変動しており、北湖一円の漁場で値に差はあるものの、その増減傾向はほぼ一致している。全湖的な現象と考えられるこの変動をより詳細にとらえるため、2010年度以降、主要漁場の一つで水深の幅が広い松原漁場において肥満度のモニタリング調査を実施している。



図1 松原漁場の水深別定線（破線）

## 2. 方法

彦根市松原町地先のシジミ漁場に等深線と平行に4本の調査定線を設けた（図1）。ほぼ毎月、調査用定量桁網（採取幅8cm、袋網の目開き10mm）を用いて定線上で採集調査を実施し、成貝について漁場別調査と同じ方法で肥満度を測定した。

## 3. 結果

各定線における肥満度の推移を図2に示した。2021年の肥満度は、前年10月から回復しはじめ、1月には平均3.4%、2月には4.1%と前年を大幅に上回る速度で上昇し、4月には4.4%に達した。その後横ばいとなったが、昨年度のような明らかな低下は認められず、6月にも平均4.3%を維持した。

水深10mの肥満度は、6月の4.0%から7月には2.6%に低下し、解剖所見からも産卵が確認された。昨年度には産卵しなかった可能性のある水深15mでは、8月の3.5%から9月には2.5%に肥満度が低下し、生殖腺の内容の変化からも放卵放精が行われたものと考えられた。

肥満度の最低値は、5m以浅は9月で平均2.0%、10m以深は10月で平均1.9%と2016年以来の高い値となった。その後、肥満度は順調に回復しはじめ、2022年1月には3.2%に達した。2月以降肥満度は横ばいとなり、3月も3.2%で前年の4.2%にくらべると低かったが、これには今冬の厳寒が影響している可能性がある。

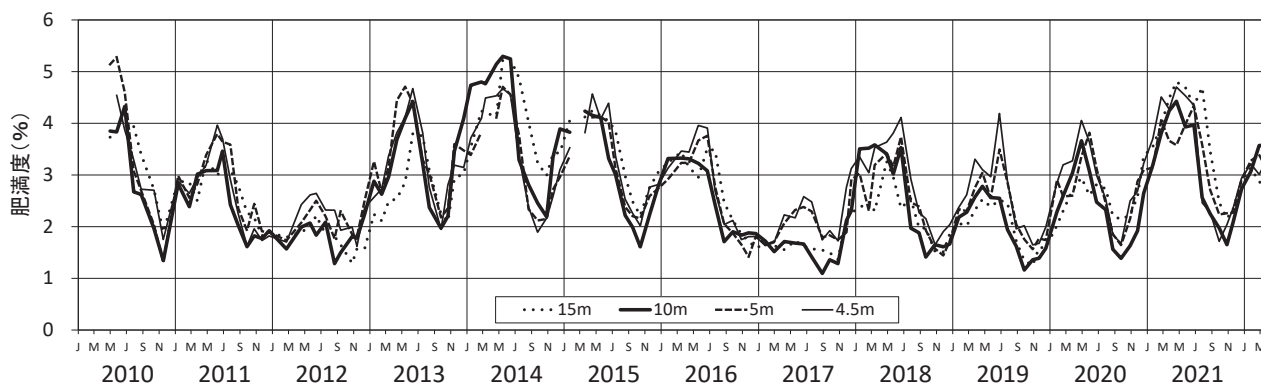


図2 松原漁場の水深別定線におけるセタシジミの肥満度の推移

肥満度(%) = 貝の中身（軟体部）の乾燥重量 / 貝全体の重量（貝殻および内部の水を含む） × 100  
本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の成果の一部である。